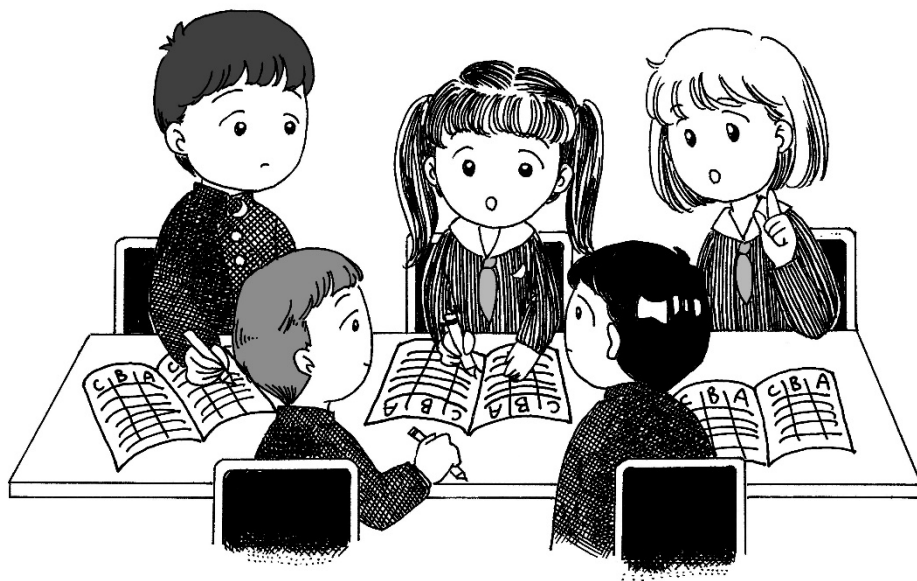


探究・レポート・論文

ルーブリック



ルーブリック Rubric

直訳すると、試験などのルール、規程、心得の意味。近年、欧米の中等教育や高等教育の現場で活用されている評価基準のこと。一般的には、左の列に評価指標（学習の目標）、上の行に評価基準（レベル）が示された表のことを指す。それぞれの評価指標で、どの程度達成できれば、どのように評価されるのかがわかる。今までのテスト（試験）による評価に対して、パフォーマンス評価とも呼ぶ。

読書科の卒業レポートを念頭において作成されているが、広く一般的な探究型学習、レポート作成、論文執筆にも使えるように作成されている。レポート・論文などを作成するときには、このルーブリックを主体的に活用してほしい。それぞれの評価指標において、Aの評価基準を満たせば、中等教育段階（中学生）においては十分である。



関西学院中学部
KWANSEI GAKUIN JUNIOR HIGH SCHOOL

		C	B	A	S
① 課題の設定	1 学習のねらいの理解	学習のねらいを理解できなかった。	学習のねらいを理解できた。	学習のねらいを理解し、自分の言葉で文章にできた。	学習のねらいを他の人に説明できるくらい理解し、自分の言葉で文章にできた。
	2 問題意識を深める	関連するキーワードを1つ～5つ考えることができたが、キーワードの関連性について考えることができなかった。	関連するキーワードを6つ～9つ考えることができた。複数のキーワードの関連性について考えて、問題意識を深めることができた。	関連するキーワードを10以上考えることができた。複数のキーワードの関連性について考えて、問題意識を深めることができた。	関連するキーワードを10以上考えることができた。さらに、それらのキーワードを広げたり、複数のキーワードの関連性について考えたりして、問題意識を深めることができた。
	3 課題の設定	調べたい領域から問いを1つ～2つ考えて、そのなかから1つに決めることができた。	調べたい領域から問いを3つ～4つ考えて、そのなかから1つに決めることができた。	調べたい領域から問いを5つ以上考えて、そのなかから1つに決めることができた。	調べたい領域から、基礎的な情報を調べた。調べたことを参考にして、問いを5つ以上考えて、そのなかから1つに決めることができた。
	4 課題設定の理由	問いを決めた動機や理由を考えることができなかった。	問いを決めた動機や理由を1つ考えることができた。	問いを決めた動機や理由を2つ考えることができた。	問いを決めた動機や理由を2つ考えることができ、自分の言葉で文章にできた。
② 情報探索の計画	5 課題の概要理解	問いに関する周辺知識を得ることができなかった。	問いに関する周辺知識を得るように努めたが、関連する適切な概論書を見つけることができなかった。	問いに関連する適切な概論書を見つけて、周辺知識を得ることができた。	問いに関連する適切な概論書から周辺知識を得て、さらに自分が探究したい問いを絞り込むことができた。
	6 小課題・仮説の設定	小さな問いを1つ～2つ考えることができたが、予想・仮説を考えることができなかった。	小さな問いを1つ～2つ考えることができ、予想・仮説を考えることもできた。	小さな問いを3つ考えることができ、予想・仮説を考えることもできた。	小さな問いを4つ以上考えることができ、予想・仮説を考えることもできた。
	7 論理の構築	問いから仮説（答え）にいたる流れ（論理）を構築できなかった。マインドマップをどのように活用すればいいかわからなかった。	マインドマップなどを参考にしたが、問いから仮説（答え）にいたる流れ（論理）を構築できなかった。	マインドマップなどを参考にして、問いから仮説（答え）にいたる流れ（論理）を構築できた。	マインドマップなどを参考にして、問いから仮説（答え）にいたる流れ（論理）を構築し、アウトラインに反映させることができた。
	8 情報探索方法の選択	調べる方法（図書、Web、雑誌論文、新聞、フィールド・ワーク、実験・観察など）が複数あることを理解していたが、1つしか選択できなかった。	調べる方法（図書、Web、雑誌論文、新聞、フィールド・ワーク、実験・観察など）が複数あることを理解して、2つ以上選択できた。	調べる方法（図書、Web、雑誌論文、新聞、フィールド・ワーク、実験・観察など）が複数あることを理解して、2つ以上選択できた。さらに、実際にどのように情報を探索するかを文章にできた。	調べる方法（図書、Web、雑誌論文、新聞、フィールド・ワーク、実験・観察など）が複数あることを理解して、2つ以上選択できた。さらに、実際にどのように情報を探索するか、選択した方法が問いや仮説を調べるのに適している理由を文章にできた。
	9 予定表の作成	予定表を作ることができたが、予定から4回以上遅れたり、提出日に間に合わなかったりした。	予定表を作ることができた。予定から3回遅れることはあったが、提出日に間に合うように調整して進めることができた。	予定表を作ることができた。予定から1回～2回遅れることがあったが、提出日に間に合うように調整して進めることができた。	予定表を作ることができ、すべて予定通りに進めることができた。
	10 学習目標の設定	学習の目標を考えることができなかった。	学習の目標を1つ考えることができた。	学習の目標を2つ考えることができた。	学習の目標を2つ以上考えることができた。自分の言葉で文章にできた。
③ 情報収集	11 検索キーワードや検索式の設定	情報検索のためのキーワード（検索語）を4つ以下考えることができたが、検索式を作成できなかった。	情報検索のためのキーワード（検索語）を5つ以上考えることができたが、検索式を作成できなかった。	情報検索のためのキーワード（検索語）を5つ以上考えることができ、検索式を作成することができた。	情報検索のためのキーワード（検索語）を5つ以上考えることができ、検索式を作成することができた。検索式では、上位・下位概念、同義語、類義語の関係を意識できた。

		C	B	A	S
③ 情報収集・選択	12 情報検索 (目録やリスト)	学校内の公共図書館などのOPAC、資料リストやリンク集を利用できなかった。	学校内や公共図書館などの OPAC、資料リストやリンク集 を利用できた。検索項目のうち、1つしか入力して検索できなかった。	学校内や公共図書館などのOPAC、資料リストやリンク集を利用できた。検索項目のうち、 複数のキーワード（検索語） を組み合わせて検索できた。	学校内や公共図書館などのOPAC、資料リストやリンク集を利用できた。検索項目のうち、複数のキーワード（検索語）を組み合わせて検索できた。期待した結果が得られなかったときは、検索結果を参考にして キーワード（検索語）を検索式を修正 できた。
	13 情報検索 (Web)	推奨されたWebサイトを利用したが、情報を選び取ることができなかった。	推奨されたWebサイト を利用して、必要な情報を選び取ることができた。	推奨されたWebサイト以外にも 探して、必要な情報を選び取ることができた。フリース検索、ドメイン検索、ファイル指定検索などのオプションは活用しなかった。	推奨されたWebサイト以外にも探して、必要な情報を選び取ることができた。フリース検索、ドメイン検索、ファイル指定検索などの オプション を活用できた。
	14 情報検索 (データベース)	どのデータベースを利用したらいいか分からず、利用できなかった。	情報を探すのに適した データベース を利用できたが、データベースの特徴（収録範囲やAND/OR/NOTなど）を理解しないまま検索した。	情報を探すのに適したデータベースを利用でき、 データベースの特徴（収録範囲やAND/OR/NOTなど） を理解したうえで検索できた。	情報を探すのに適したデータベースを利用でき、データベースの特徴（収録範囲やAND/OR/NOTなど）理解したうえで検索できた。期待した結果が得られなかったときは、データベースの変更や検索結果を参考にして キーワード（検索語）や検索式を修正 できた。
	15 フィールドワーク	問いを解決するための実地調査（フィールド・ワーク）をすることができなかった。	問いを解決するための 実地調査（フィールド・ワーク） をすることができた。調査計画の立案が不十分であったため、必要な情報・データを集められないことがあった。	問いを解決するための実地調査（フィールド・ワーク）をすることができた。 調査計画を立案 して実施したが、必要な情報・データを集められないことがあった。	問いを解決するための実地調査（フィールド・ワーク）をすることができた。調査計画を立案し、 必要な情報・データをもれなく集める ことができた。
	16 情報の評価	探し出した情報を理解できなかった。	探し出した 情報を理解 できたが、評価できなかった。	探し出した情報を理解し、 評価 できた。	探し出した情報を理解し、問いの解決に 必要かどうかを検討・判断 して、評価できた。
	17 情報カードの作成	「要約」と「意見」の情報カードを作成できなかった。	「要約」と「意見」の情報カードや必要に応じた「 補足 」の情報カードを作成できた。しかし、問いの解決を目指して、小さな問いを見つけること・問いから連想することは意識できなかった。	「要約」と「意見」の情報カードや必要に応じた「補足」の情報カードを作成できた。さらに問いの解決を目指して、 小さな問いを立てること・問いから連想することを意識 しながら作成できた。	「要約」と「意見」の情報カードや必要に応じた「補足」の情報カードを作成できた。さらに問いの解決を目指して、小さな問いを立てること・問いから連想すること・ 仮説やアウトラインに照合 することを意識しながら作成できた。
	18 複数の情報源の選択	問いを解決するために選択した情報源は4つ以下であった。	問いを解決するために選択した 情報源は5つ であった。情報源として、図書、Web、雑誌論文、新聞のうち、1種類のみだった。	問いを解決するために選択した情報源は5つであった。情報源として、 図書、Web、雑誌論文、新聞のうち、2種類 だった。	問いを解決するために選択した 情報源は6つ以上 であった。情報源として、図書、Web、雑誌論文、新聞すべてを選択できた。
④ 確かな情報の利用	19 出典の明記	参考資料を書きもらしたり、書誌情報が抜けていたりした。	すべての 参考資料を書く ことができたが、書誌情報を抜けていることがあった。	すべての参考資料について、 書誌情報をもれなく書く ことができた。	すべての参考資料について、書誌情報をもれなく、 間違えずに書く ことができた。
	20 情報の信頼性の検討	情報の信頼性について考えることができなかった。	情報の信頼性について（著者や作成者の経歴、出版社やドメイン名、出版年や更新の頻度、データの調査元など）などのうち、 1つは確認 して検討できた。	情報の信頼性について（著者や作成者の経歴、出版社やドメイン名、出版年や更新の頻度、データの調査元など）などのうち、 2つは確認 して検討できた。	情報の信頼性について（著者や作成者の経歴、出版社やドメイン名、出版年や更新の頻度、データの調査元など）など、 すべてを確認 して検討できた。
	21 知的財産権や新しい人権への配慮	著作権などの知的財産権やプライバシー・個人情報などの新しい人権に配慮する必要性を認識していなかった。	著作権などの知的財産権やプライバシー・個人情報などの新しい人権に配慮する 必要性を認識 していたが、どのように配慮すればいいのかわからなかった。	著作権などの知的財産権やプライバシー・個人情報などの新しい人権に配慮する必要性を認識し、 正しく扱う ことができた。	著作権などの知的財産権やプライバシー・個人情報などの新しい人権に配慮する必要性を認識し、 正しく扱う ことができた。さらに、知的財産権や新しい人権について 自分で調べて、理解を深めた 。

		C	B	A	S
⑤ 情報 の 記録 ・ 整理	22 情報の記録	情報源のなかで重要だと考えた部分もあったが、十分確認できなかった。情報カードには必要な情報を記録しようとしたが、引用や要約のやり方が分からなかった。資料リストを作成できなかった。	情報源のなかで 重要だと考えた部分を確認 することができた。情報カードには、必要な情報を記録しようとしたが、引用や要約のやり方が分からなかった。資料リストを作成できた。	情報源のなかで重要だと考えた部分を確認することができた。情報カードには、情報の引用・情報の要約・自分の意見を区別して記録できたが、 引用が多かった 。資料リストを作成できた。	情報源のなかで重要だと考えた部分を確認することができた。情報カードには、 情報の引用・情報の要約・自分の意見を区別して記録 できた。資料リストを作成できた。
	23 情報整理の方法	記録した情報をうまく整理できなかった。	記録した情報を 内容ごとのグループ にまとめて、 グループに見出しをつける ことができた。	記録した情報を内容ごとのグループにまとめて、グループに見出しをつけることができた。さらに、どれが重要な情報か判断し、不要な情報は削ることで、 情報を整理 できた。整理の結果、 足りない情報があるかどうか考える ことができた。	記録した情報を内容ごとのグループにまとめて、グループに見出しをつけることができた。さらに、どれが重要な情報か判断し、不要な情報は削ることで、情報を整理できた。整理の結果、足りない情報があるかどうか考えることができた。そのうえ、 自分にあった整理方法 を見つけれれた。
⑥ 情報 の 分析	24 事実と意見の区別	情報が事実であるか、著者の意見であるかを区別できなかった。	情報が事実であるか、著者の意見であるかを 区別 できたが、情報源の一部の傾向だけで著者の意見を判断してしまった。	情報が事実であるか、著者の意見であるかを区別でき、 情報源全体の傾向 をとらえて、著者の意見を理解できた。	情報が事実であるか、著者の意見であるかを区別でき、情報源全体の傾向をとらえて、著者の意見を理解できた。それらが問いを解決するのに 必要な情報かどうか判断 できた。
	25 数値データの取り扱い	図や表の数値データを読み取ることができなかった。	図や表の 数値データを読み取る ことはできた。しかし、読み取ったデータのなかから、問いの解決に役立ちそうなものを見つけられなかった。	図や表の数値データを読み取ることができた。さらに、読み取ったデータのなかから、 問いの解決に役立ちそうなもの を見つけた。しかし、データを加工・分析できなかった。	図や表の数値データを読み取ることができた。さらに、読み取ったデータのなかから、問いの解決に役立ちそうなものを見つけた。そのうえ、表計算ソフトでグラフを作成し、 量・割合を比較することや推移を読み取る ことができた。
	26 情報の分類と関係	類似点や相違点から情報を分類すること、因果関係や主従関係といった情報同士の関係を見つけることもできなかった。	類似点や相違点から 情報を分類 することはできた。しかし、因果関係や主従関係といった情報同士の関係を見つけることはできなかった。	類似点や相違点から情報を分類し、因果関係や主従関係といった 情報同士の関係 を見つけることができた。	類似点や相違点から情報を分類し、因果関係や主従関係といった情報同士の関係を見つけることができた。それらが 問いを解決するのに必要な情報かどうか判断 できた。
	27 問いとの関係性	事実確認や問いの背景に関する情報を選び取ることができた。また、主張（自分の意見）とその根拠、様々な具体例を選び取ることができなかった。	事実確認や問いの背景に関する情報を選び取ることができた。また、主張（自分の意見）とその根拠、様々な 具体例を1つ 選び取ることができた。	事実確認や問いの背景に関する情報を選び取ることができた。また、主張（自分の意見）とその根拠、様々な 具体例を2つ 選び取ることができた。	事実確認や問いの背景に関する情報を選び取ることができた。また、主張（自分の意見）とその根拠、様々な 具体例を3つ以上 選び取ることができた。
⑦ 情報 の まとめ	28 まとめの構成	まとめるための情報が、問いの背景、主張の根拠、具体例のどれにあたるのか区別できなかった。	まとめるための情報を、問いの背景、主張の根拠、具体例に 区別 できた。	まとめるための情報を、問いの背景、主張の根拠、具体例になるのか区別でき、 まとめる順序を考えて（アウトラインに従って）並びかえる ことができた。	まとめるための情報を、問いの背景、主張の根拠、具体例になるのか区別でき、まとめる順序を考えて（アウトラインに従って）並びかえることができた。必要を感じたときは アウトラインを修正 した。
	29 情報のまとめ	調べた情報をまとめることはできた。しかし、自分の考えを整理できなかった。	調べた情報をまとめることができ、まとめた内容をもとに 自分の考えを整理 できた。	調べた情報をまとめることができ、まとめた内容をもとに 自分の考えを整理 できた。さらに、立てた問いに対して、 自分の意見とその根拠 を書くことができた。	調べた情報をまとめることができ、まとめた内容をもとに 自分の考えを整理 できた。さらに、立てた問いに対して、自分の意見とその根拠を書くことができた。 根拠は重要なもののみに絞る ことができた。

		C	B	A	S
⑦ 情報 の ま と め	30 言語の運用	レポートを読み返さなかった。	レポートを読み返して、誤字脱字や話し言葉を見つけたが、修正する時間がなかった。	レポートを読み返して、誤字脱字や話し言葉を修正できた。	レポートを読み返して、誤字脱字や話し言葉を修正できた。そのうえ、明快・簡潔・正確に伝わるように、文体を検討した。
	31 パラグラフライティング	パラグラフの概念（1パラグラフ＝1トピックの原則）やトピック・センテンスとサポーティング・センテンスを理解できなかった。	パラグラフの概念（1パラグラフ＝1トピックの原則）を理解できた。しかし、トピック・センテンスとサポーティング・センテンスを意識しなかった。	パラグラフの概念（1パラグラフ＝1トピックの原則）を理解できた。また、トピック・センテンスとサポーティング・センテンスを意識したが、書くときに守ることができなかった。	パラグラフの概念（1パラグラフ＝1トピックの原則）を理解できた。また、トピック・センテンスとサポーティング・センテンスを意識し、常に原則を守って書いた。
	32 書式	レポートなどの指定書式に注意しなかった。	レポートなどの指定書式に注意したが、4点以上の誤りがあった。	レポートなどの指定書式の誤りは3点以内におさえることができた。	レポートなどの指定書式の誤りはなかった。
⑧ 情報 の 表 現 ・ 発 信	33 発表者のタイミング時間配分	資料と話のタイミングを合わせることや時間配分について、準備をして取り組むことができなかった。	準備をして発表したが、資料と話のタイミングがずれたり、時間配分が予定よりずれたりした。	準備をして発表した結果、資料と話のタイミングを合わせることができたが、時間配分は予定よりずれることがあった。	準備をして発表した結果、資料と話のタイミングを合わせることができた。時間配分も予定通りにすることができた。
	34 発表者の発表内容デザイン	調べて分かったことは伝えることができたが、自分の考えを伝えることができなかった。スライドなどの見やすさや読みやすさ（文字の大きさ、フォントの種類）に気を配ることができなかった。	調べて分かったことや自分の考えを伝えることができた。スライドなどの見やすさや読みやすさ（文字の大きさ、フォントの種類）に気を配ることができた。	調べて分かったことや考えを伝えることができた。スライドなどの見やすさや読みやすさ（文字の大きさ、フォントの種類）に気を配ることができた。写真やグラフ、図・表・フローチャートを取り入れたが、バランスの悪いことがあった。	調べて分かったことや考えを伝えることができた。スライドなどの見やすさや読みやすさ（文字の大きさ、フォントの種類）に気を配ることができた。写真やグラフ、図・表・フローチャートを使い分けて、バランスよく資料を作成できた。
	35 発表者の声の大きさ	聞き手を意識したが、近くの人にも聞こえない大きさだった。	聞き手を意識して、遠くの人に聞こえるほどの十分な大きさを話すことができた。	聞き手を意識して、遠くの人に聞こえるほどの十分な大きさを話すことができた。重要なところは大きさを覚えて話すことができた。	聞き手を意識して、遠くの人に聞こえるほどの十分な大きさを話すことができた。重要なところは大きさを話すスピードを変えて話すことができた。
	36 発表者の話し方	聞き手を意識して（ゆっくり話す、一文を短くする、間をとる、専門用語を言い換える）のうち、1つくらいしか意識して話すことができなかった。	聞き手を意識して（ゆっくり話す、一文を短くする、間をとる、専門用語を言い換える）のうち、2つは意識して話すことができた。	聞き手を意識して（ゆっくり話す、一文を短くする、間をとる、専門用語を言い換える）のうち、3つは意識して話すことができた。	聞き手を意識して（ゆっくり話す、一文を短くする、間をとる、専門用語を言い換える）、すべてを意識して話すことができた。
	37 発表者の目線や姿勢	発表原稿を読むことが多く（5回以上）、聞き手に目線を向けることができなかった。聞き手の反応に注意できなかった。	発表原稿を読むことが多かったが（5回以上）、聞き手に目線を向けて話すことができた。聞き手の反応に注意して、必要なときは発表資料を指示するなど工夫して話すことができた。	発表原稿はときどき（3回～4回）確認するだけで、多くの時間を聞き手に目線を向けて話すことができた。聞き手の反応に注意して、必要なときは発表資料を指示するなど工夫して話すことができた。	発表原稿はほとんど（1回～2回）確認することなく、多くの時間を聞き手に目線を向けて話すことができた。聞き手の反応に注意して、必要なときは発表資料を指示するなど工夫して話すことができた。さらに身振り手振りを交えながら話すことができた。
	38 発表者の回答の姿勢・姿勢	質問をよく聞かずに、自分の意見だけを一方的に回答した。質問の意味が理解できていないことがあった。	質問を謙虚によく聞いたが、だらだらと長い回答になってしまった。質問の意味がよくわからないまま答えてしまうことがあった。	質問を謙虚によく聞いて、簡潔に回答できたが、質問の意味がよくわからないまま答えてしまうことがあった。	質問を謙虚によく聞いて、簡潔に回答できた。質問の意味を正しく把握する必要があると思ったときは、質問者に確認してから回答できた。
	39 聞き手の聞く姿勢・態度	ほかの人の発表を静かに、関心をもって聞くことができなかった。	ほかの人の発表を静かに、関心をもって聞くことができ、事実を確認する質問をすることができた。	ほかの人の発表を静かに、関心をもって聞くことができた。事実確認だけでなく発表内容に踏み込んだ質問をすることができた。	ほかの人の発表を静かに、関心をもって聞くことができた。事実確認だけでなく発表内容に踏み込んだ質問をすることができ、発表内容に対する自分の意見をもつことができた。
	40 聞き手の質問の仕方	質問を考えることができなかった。	疑問点があいまいなまま質問をした。発表者から質問の意味を聞き返されることがあった。	疑問点を明確にして質問をすることができた。発表者は質問内容を理解して返答してくれた。	疑問点を明確にして、説明を順序立てて質問をすることができた。発表者は質問内容を理解して返答してくれた。

		C	B	A	S
⑨ 学習活動の評価	41 情報機器の活用	計画の立案、情報収集や情報整理、情報分析、情報発信の手段として、コンピュータ、各種機器を活用できなかった。	計画の立案、情報収集や情報整理、情報分析、情報発信の手段として、コンピュータ、各種機器を 1回活用 できた。	計画の立案、情報収集や情報整理、情報分析、情報発信の手段として、コンピュータ、各種機器を 2回活用 できた。	計画の立案、情報収集や情報整理、情報分析、情報発信の手段として、コンピュータ、各種機器を 3回以上積極的に活用 できた。
	42 レファレンスサービスなどの活用	図書館のレファレンスサービスや先生、先輩、同級生などのアドバイスを受けなかった。	図書館のレファレンスサービス や先生、先輩、同級生などの アドバイスを受けたが 、事前に質問や相談することを整理していなかった。	図書館のレファレンスサービスや先生、先輩、同級生などのアドバイスを受けることができた。 事前に質問や相談することを整理した。	図書館のレファレンスサービスや先生、先輩、同級生などのアドバイスを受けることができた。事前に質問や相談することを整理した。相談したときには、 アドバイスの内容を記録 できた。
	43 学習課題および目標の達成度	未解決な部分もあったが、問いをほとんど解決でき、理解を深めることができた。目標の一部は達成できた。	すべての問いを解決でき、理解を深めることができた。 目標の一部は達成 できた。	すべての問いを解決でき、理解を深めることができた。 すべての目標を達成 できた。	すべての問いを解決でき、理解を深めることができた。すべての目標を達成できた。 新たな疑問やさらに調べたいこと に気がつけた。
	44 相互評価	自分の意見を伝えることや相手の意見を受け止めることができなかった。	自分の意見を伝える ことができ、 相手の意見を受け止める ことができた。	自分の意見を伝え、相手の意見を受け止めることができ、 自分の考えを深める ことができた。	自分の意見を伝え、相手の意見を受け止めることができ、 具体的に改善したいことを考える ことができた。
	45 学習過程の評価	ルーブリックを活用して学習の仕方をふり返ることができず、改善点を考えることができなかった。	ルーブリックを活用して学習の仕方をふり返り、学習によって 身についたこと 、または 改善点を1つ考える ことができた。	ルーブリックを活用して学習の仕方をふり返り、学習によって 身についたこと や 改善点を、それぞれ1つ以上考える ことができた。	ルーブリックを活用して学習の仕方をふり返り、学習によって 身についたこと や 改善点を、それぞれ1つ以上考え、次の目標を決める ことができた。

